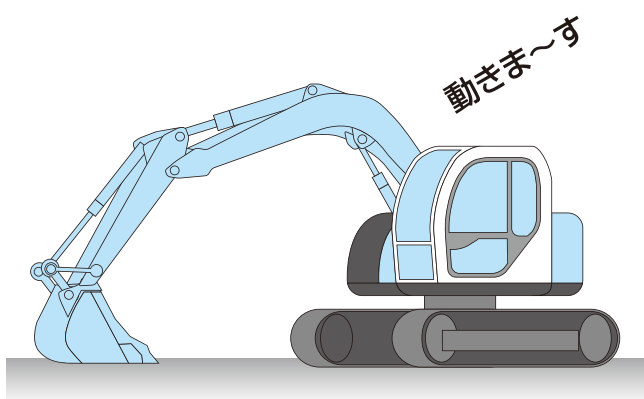


作業中の注意

B 作業中の注意

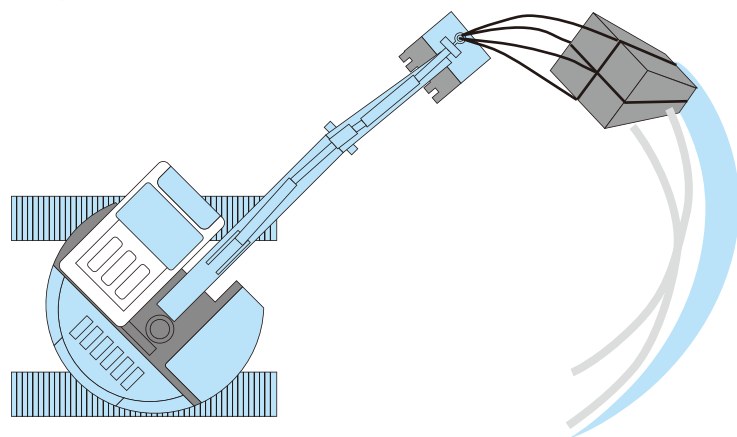
機械を動かす時は

不用意に機械を動かすのは、とても危険です。機械を動かす前には、必ず周囲に人がいないことをよく確かめ、ホーンを鳴らして注意を促してください。



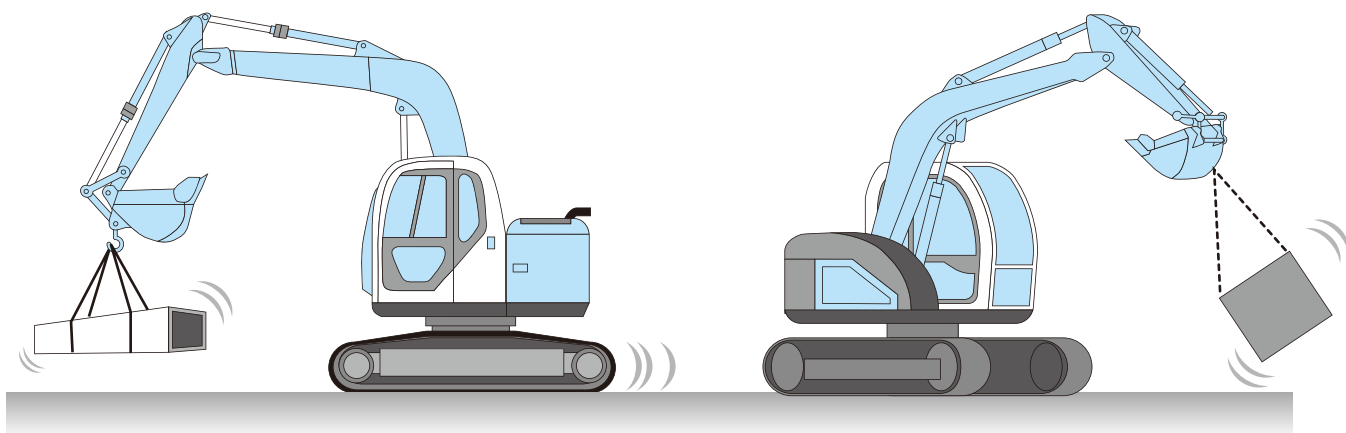
つり荷旋回はとくにゆっくりと

荷をつって急旋回・急停止すると、遠心力でつり荷が外に引っ張られて、とても危険です。旋回は低速で、旋回範囲内に人がいないか、障害物がないかを確認しながら、ゆっくりと操作してください。



つり荷走行は原則禁止

つり荷走行は、原則として禁止されています。やむを得ず荷をつったまま移動する場合は、絶対に過負荷にならないように、つり荷は定格荷重の50%以下で行います。玉掛ロープをなるべく短くして、つり荷を地面から数十cm浮かせた状態で、荷が振れないように低速でゆっくりと発進・走行・停止します。傾斜地や路肩は避けて、平らな地盤を選んで走行してください。

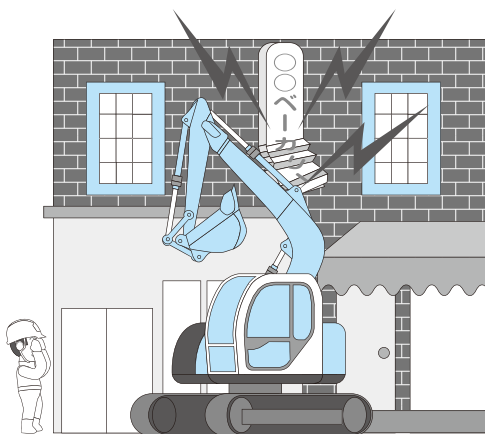


操作は確実・ていねいに

乱暴な運転は、つり荷が振れて安定が悪くなったり、機械を傷めるばかりでなく、周囲の人も巻き込んだ事故の原因となります。レバーやペダルは確実・ていねいに扱い、とくにシリンダのストロークエンドは静かに操作しましょう。

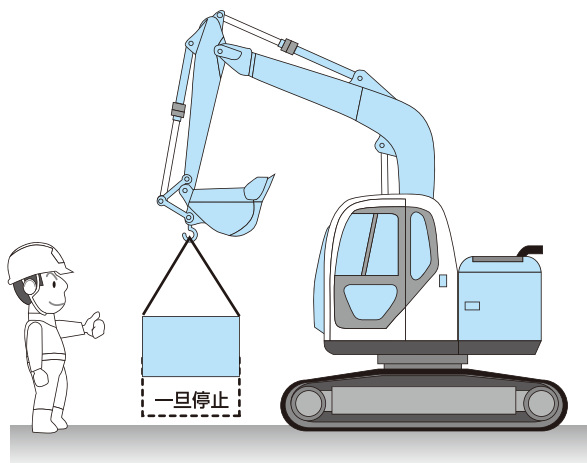
■ アタッチメントを動かすときは

市街地では、周囲だけでなく頭上にも看板や電線、民家の屋根など、さまざまな障害物があります。アタッチメントを操作するときは、機械やつり荷がこうした障害物に衝突しないように、頭上にも十分注意してください。



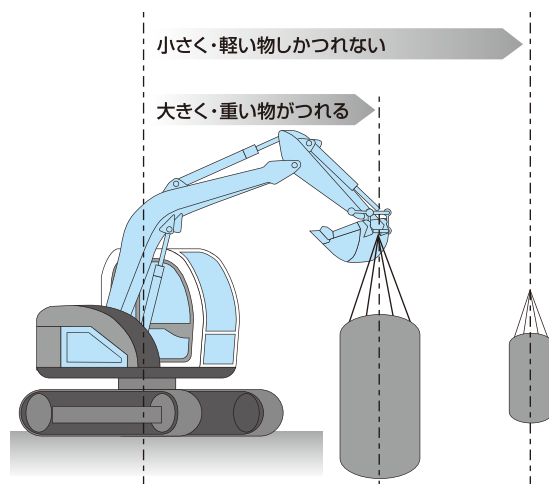
■ 荷物は一気につり上げず

つり荷は一気につり上げず、地面から少し離れた時点でいったん停止して、つり荷のバランスの状態や機械の安定度をチェックしてから慎重につり上げてください。これを地切り操作といいます。



■ つねに能力の余裕をチェックして

ブーム、アームの角度により、作業半径は大きく変化します。作業半径が大きくなるとつり上げ能力が小さくなることを考慮して、機体の安全性や能力に十分余裕のある作業をしてください。



■ レンタル機を使う時は

オペレーター付で機械を借りた場合は、そのオペレーターが正しい運転資格をもっているか確かめ、作業内容や合図の方法を細かく打ち合わせてください。また、レンタル業者に操作パターンを確認したうえ、オペレーター自身も、必ず試運転してください。

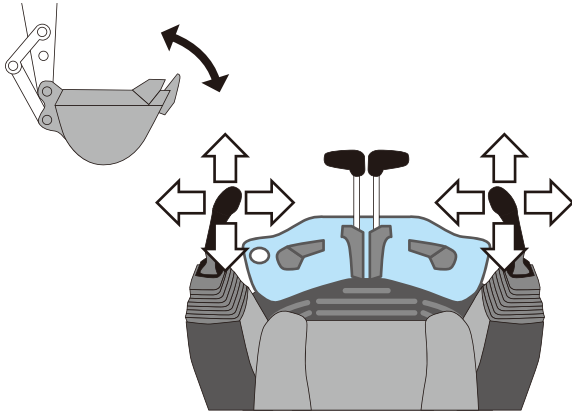




油圧ショベル運転に関するご注意

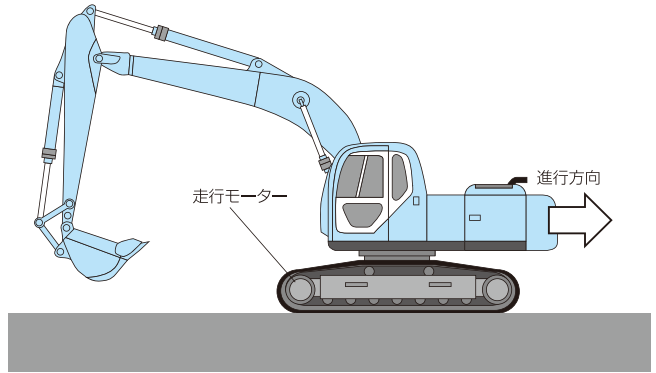
●操作レバー作動確認!

作業前には、必ず周囲の安全に注意して、各レバーをゆっくり操作し、表示銘板の操作パターンと機械の動作が一致していることを確認してください。



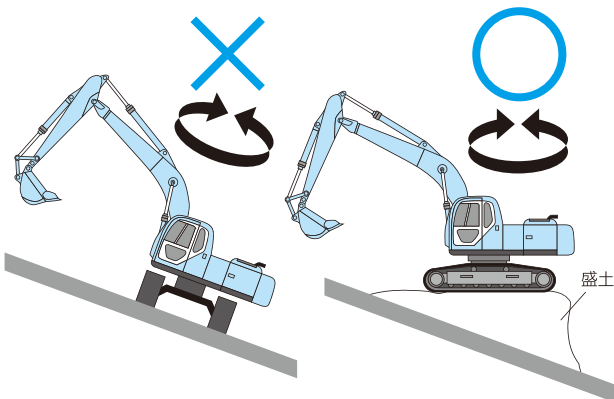
●機械の発進は、向きを確認して!

発進する前に走行モーターの位置を確認してください。又、発進する前に機械の周囲に人が入り込まないように、ホーンや合図により警告してください。



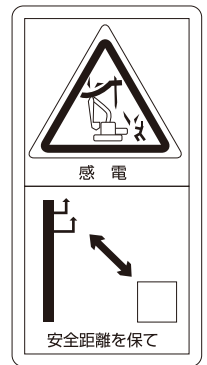
●傾斜地作業時の注意!

傾斜地での作業では機械のバランスを失って転倒する恐れがあります。注意して作業してください。バケットに土砂を入れた状態で谷側へ旋回することは危険です。やむを得ない場合は、傾斜に盛土をして機械をできるだけ水平にしてください。



●送電線に注意!

機械が電線に近づきすぎると感電する危険があります。電線から安全な距離を保ってください。高圧電線の近くで作業する時は、電力会社に連絡をとり、指示をあおぐ等適切な処理をとってください。安全な距離の目安は、以下の通りです。



電 圧	電力会社の目標値 離間距離
100V・200V以下	2m以上
6,600V以下	2m以上
22,000V以下	3m以上
66,000V以下	4m以上
154,000V以下	5m以上
275,000V以下	7m以上
500,000V以下	11m以上

※油圧ショベルショップマニュアル「安全編」より抜粋

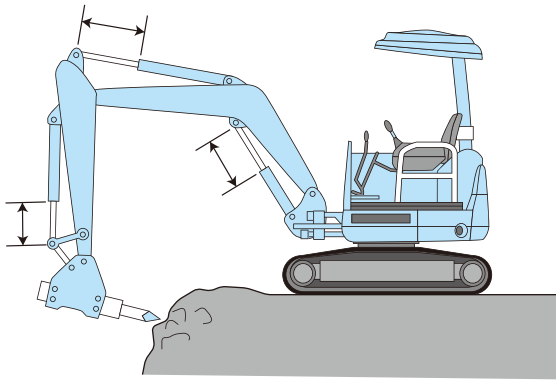


油圧アタッチメント使用上のご注意

●ブレーカー、クラッシャー等は シリンダーストロークエンドでの作業禁止!

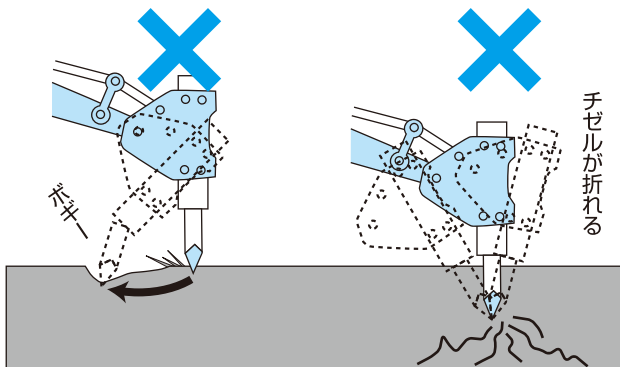
シリンダーはストロークエンドに多少の余裕を残すように作業してください。

ストロークエンドで使用しますと、シリンダー及び本体に大きな負荷が生じ、シリンダー及びアタッチメントの寿命を著しく縮めます。



●チゼルをこじらない!

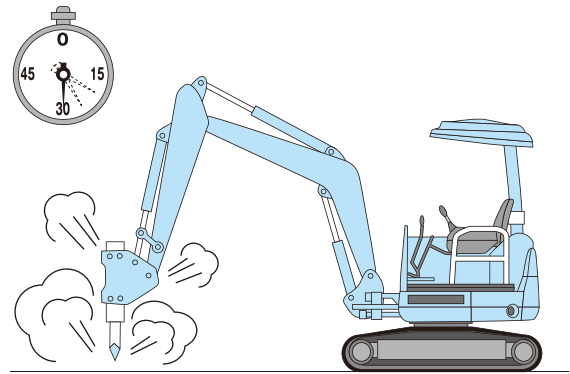
チゼルをこじるとサイドボルト、チゼルの折損やブッシュ類の摩耗原因となります。



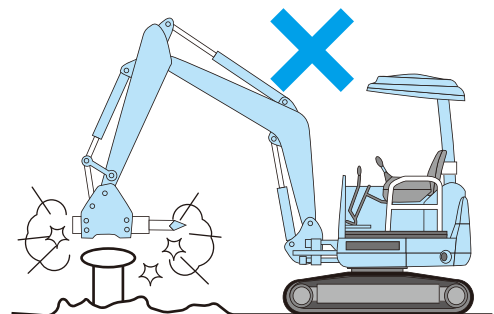
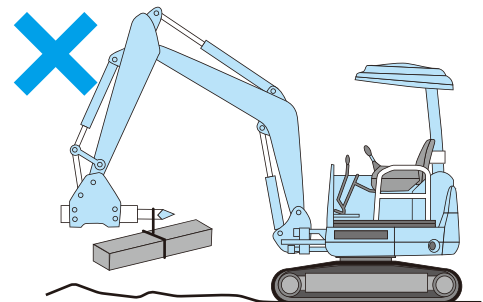
●30秒以上打ち続けることは避けよう!

同一箇所を30秒以上打ち付けても割れない時は、打撃位置を変えてください。

打撃を続けると油温が上昇し、アキュムレーターの不具合、シリンダシールの劣化の原因となりますので避けてください。



●ブレーカーを 破碎作業以外には使用しない!



※社団法人日本建設機械工業会発行「安全マニュアル」より抜粋